

# みやけの風

## 第 239 号

平成17年(2005年)9月10日(土)発行  
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
 発行責任者：上原 泰男  
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階  
 東京ボランティア・市民活動センター 気付  
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

9月も二週目に入り、台風の直撃を受けた日本列島は各地から大きな被害が伝えられています。苗場の野菜やイモなどは大丈夫だったでしょうか？東京でも中野、杉並、武蔵野で床上浸水などがあり地下駐車場の車が水に浸かるなどあちこちで被害が出ています。便利な様でも都会の限られた環境では、自然の力にはどうすることも出来ません。なにかあった時に声かけ合い助け合える隣近所を作る、これが三宅島の方々から教わった大切なことと改めて思った雷雨の中でした。

### みんなの声

#### やっぱり我が古里はいいな～

避難解除されての四月、赤帽ボランティアに参加しての帰島に引き続き、八月、避難中に体調を崩した叔母、その娘と共に、2度目の古里への帰島でした。

ガス情報が放送で流されるたび、緊張に耳を澄ませることは前回と変わりません。完全帰島された方からお叱りを受けるかもしれませんが、それでも前回よりは放送が少なくなった感があるように思えました。特に、夜中の放送がないのがホッとした事でした。

今回は自宅への滞在が出来なかったため、叔母宅への居候と相成りました。叔母宅も、屋根、床と修繕の大工事が、5年間の留守を物語っていました。

そんな中にも、新鮮な魚たち カサゴ、メダイ、キンメ、タカベ、ムロ、あさり(一枚貝)やセッコ(貝)と届けてくれる方がいて、久しぶりの恋人に会えた様な気持ちで食しました。以前は当たり前前に食べていたものが、こんなに新鮮に感じていただろうかと、改めて思い返しての舌つづみでした。

生態系も戻りつつあると聞いていましたが、少しずつお店のにぎわい、人の流れ、地区毎に差はあるかもしれませんが、戻りつつあるように嬉しく、なによりも小さなお子さんの姿を見かけた時には、「帰って来てくれたの～」と思わず声をかけてしまいました。

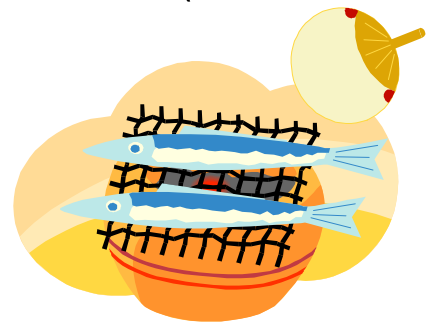
この幼い命に今後どの様な影響が出るか分かりませんが、一日も早くみんなに幸福が訪れ、各避難地区で交流してきた方々といつまでも気持ちを一つにして、島に「あすなるの木」を育てて行けたら、なんて素晴らしい事で

しょう。

私事になりますが、叔母も古里での生活に、大好きな魚も食べられて、心配していたより元気を回復したように思います。積極的に外出したり、やはり人とのふれあいにより、心の回復につながっているのでしょうか。

何人かの知人宅へも訪問しましたが、まだまだ心の中の重たさは感じますが、自分たちの古里としてしっかり受け止めて、根付いているように思った今回の帰島でした。

「やっぱり我が古里はいいな～」の一言です。  
 (越谷市 阿古 若木恵美子)



### 三宅島便り

私も世間も老いと病い、交通事故、お盆の帰省や旅行ラッシュ、加えて、地震は東京、福岡、宮城、中越と相次ぎ大変。香川の早明浦ダムがまた底を見せたというのに、(8/23 現在のこと。台風14号の豪雨で現在では貯水率は100%に回復しているそうです。編集担当)全国各地では夏の豪雨騒ぎ続出という環境異変。水不足が過剰か市域の差が極端で気の毒としか言いようがありません。(中略)

島は従来が強風豪雨に加え、噴火降灰の土石流と、風向き次第では火山ガスの心配で極度に緊張中。拙宅には脱硫装置があり、火山ガスには対応可能。それでも8月17日の朝か

ら夕方まで丸一日流れたレベル2(0.6ppm)の火山ガスに終日閉じ込められた部屋暮らしでは、これがやがてお世話になる老人ホーム疑似体験かと味わいました。気まま暮らしの私には無理でしょう。

翌朝、庭に出てみたら野菜の葉が皆白く枯れてがっかり。前回被害から約40日余、風上の幸運で回復傾向にあっただけに、収穫直前の生育ストップにはため息。この繰り返し予想でも、流人百姓はしぶとく対策探りながら粘り続けています。

金属をも溶かす亜硫酸ガスに耐える野菜・花を探すのが私の課題。不可能と思われる中にもガス避ける方策を見つけねばと覚悟。実際拙宅の野菜畑では、地ばえキュウリ、マクワウリ、オクラなどは葉は傷んでも実は確実に収穫続いています。原種、野生種に近いものの中にはガスに耐えられるものが確認できました。食べてうまいものは、人間の都合に合わせて改良されたので自然環境の激変に耐えられないのでしょう。

今、洋ラン温室を改造して火山ガスと対抗中。その温室で5年間水なし肥料なしで放置の地植えパパイヤが大きな実を7つもつけて驚き。不思議現象の謎解きは楽しみ。庭の露地植えのバナナ、ソテツ、ストレッチア、月桃も元気旺盛。いずれも熱帯植物の仲間。酸性火山灰土、酸性雨にも負けずたくましく耐えています。モンステラの実、月下美人の花も驚き。食べられないものばかり元気で悔しい思いです。(中略)

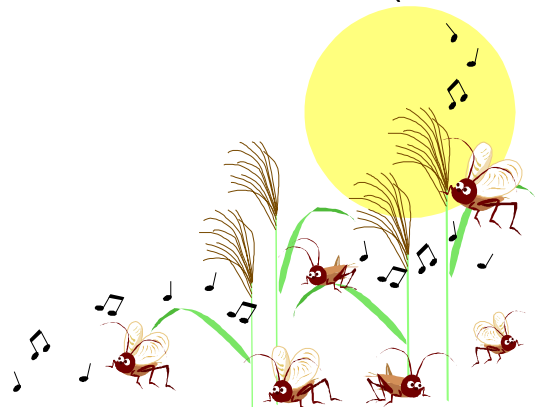
拙宅状況から報告すれば、木造の家は外側が傷んでいても中はほぼ無事。周囲の緑はあ

らかた消え、ことに家の前の「ホトリの森」は、二抱えもあるスダジイがことごとく枯れて悲惨な姿です。そんなところでも百姓がしたくて戻ったのが本音かも知れません。そこで連日、藪を開墾して雑木を燃やしています。都会から逃れ、離島の学校を選んだ落ちこぼれをやさしく受け入れてくれた島びとが今、生計の道すら見つからずに悩む姿を横目に逃げ出すわけにはいきません。及ばずながら意地もあります。

とは言っても、飲み薬は12種類に増え、体重は57kgに減り、老いて体力も失せ、余命10年を願いながら、生への道にしがみついているのが現状です。(中略)

そんな中、帰島しての安らぎは、ふるさとの広い海と空、馴染みの顔との話し、わずかに残っている集落の緑でしょう。避難中に亡くなった仏様を先祖墓に迎え入れるお盆賑わいで一安心の家庭もありました。季節も移り変わりは確実に、昼はトンボが群れ飛び、モズの高鳴き騒ぎがにぎやかですし、夜はスズムシも鳴き始め、避難で疲れた島びとの気持ちを癒しています。

(阿古村 榮)



<< 三宅島自然ふれあいセンター アカコッコ館 より >>

### アカコッコ館でパソコンを無料貸し出しします

みやけエコネット <http://www.miyake-eco.net>

三宅島の自然情報を発信する、みやけエコネットを開始して1ヶ月になります。島内からもより多くの方に書き込みをしていただきたいと思います、アカコッコ館ではノートパソコンの無料貸し出しをこれから開始します。希望の方はレンジャーまで御連絡ください。(インターネットのプロバイダについては各自の御契約になります) 三宅島自然ふれあいセンター アカコッコ館

開館：9：00～16：30 休館日：月曜日(祝日の場合はその翌日)

利用料：200円(中学生以下と65歳以上は無料)

〒100-1211 東京都三宅島三宅村坪田4188

電話：04994-6-0410 FAX:04994-6-0458

E-mail:miyakejima@aq.wakwak.com



「みやけの風」へのご意見・ご要望を、三宅島支援東京センターまでお聞かせください。